



しずく 通信

もくじ

01 創刊にあたって（灯）

02 みんなで観る会の記録 第1回・第2回

03 寄稿 背景の空の話（十一）

04 夏の選書

05 次の会のお知らせ

06 編集後記（はるまき）

創刊にあたって

(灯)

夜の九時すぎ、窓を開けたまま、これを書いています。雨上がりで、網戸の向こうが少しだけ湿っています。

一滴舎は、去年の十一月に、本や音楽の感想を送り合う数人のやりとりとして始まりました。誰かに勧めたいというより、心が動いたことを、誰かに聞いてほしかった。たぶん、最初はそれだけでした。

この春、集まらない日が続きました。それで五月から、画面越しに同じ作品を同じ時間に観る会を始めました。やってみると、感想を送り合うのとは少し違うものが残りました。同じ場面で黙る人がいる。違う場面で泣く人もいる。その違いを、あとから読み返せる形で残しておきたくなりました。

「しずく通信」は、そのための会報です。季節ごとに、年に四回出します。会の記録と、メンバーの短い文章と、次の季節に読んでほしい、観てほしい作品を載せていきます。

名前は、一滴舎の「一滴」から取りました。大きな波ではなく、しずくくらいの大きさで、少しずつ心に落ちるものを集めていけたらと思います。

編集は、六月から加わってくれたはるまきが引き受けてくれました。わたしは進行役のまま、少しだけ書く側にまわります。どうぞよろしくお願いします。

みんなで観る会の記録

記録系の栞のメモをもとに、はるまきがまとめました。

第1回（五月） 泣きたい 『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』

初めての画面越しの会。進行は灯、作品は凧が選びました。この夜は灯・凧・栞の三人。テレビアニメの全13話から、第10話を一緒に観ました。病気の母親が、幼い娘のために五十年分の誕生日の手紙を書き残す話です。

灯は、何も知らない娘が遊んでほしいとせがむ場面で、凧は手紙が一年ごとに届いていく場面で、栞は主人公が帰る場所に帰ってから泣き崩れる場面で、それぞれ手が止まったそうです。見終わってから数分間、誰の画面からも音がしなかった、と栞のメモにあります。

第2回（六月） 笑いたい 『よつばと！』 あずまきよひこ

前の月にたくさん泣いたので、今回は笑う回。進行は灯、作品は凧が選んだ漫画です。はるまきが初めて参加し、この回で初めて六人全員がそろいました。第1巻をそれぞれ読んできて、当日はほかの巻から一人一つずつ、好きな話を持ち寄りました。

引っ越してきた五歳のよつばが、見るもの聞くもの全部に全力で驚く。その驚き方がいちいち大げさで、読み上げているうちに、読み上げている本人が笑って続きを読めなくなる、ということが何度もありました。凧が持ってきたのは、段ボールで作ったロボットの話。ロクはふだんあまり笑い声を出さないのですが、この話のときだけは、マイク越しにはっきり聞こえました。

栞のメモの最後には、泣く会と同じくらい、笑う会のあとも体が軽かった、と書いてあります。

寄稿 背景の空の話

(十一)

入道雲。その手前に、自転車と坂道。人物は小さい。

アニメを観るとき、ワタシはまず空を観る。人物の顔より先に、背景の空の色。そこに、その場面の気持ちが先に置かれていることが多いのである。

細田守監督の『時をかける少女』は、夏の空の映画である。何度も同じ日をやり直す少女の頭上に、いつも同じような入道雲がある。真っ白で、輪郭がくっきりしていて、少し現実よりも大きい。やり直しても、やり直しても、空だけは動かない。一枚の絵として観ると、あの雲は、取り戻せない夏そのものに見える。

新海誠監督の『天気の子』は、反対に、雨の空の映画。灰色の街に、ほんの一瞬だけ光が差す。つまり、光。雨の場面が長いからこそ、晴れ間の数秒が、胸の奥に焼きつく。

泣く場面で、空が晴れていることがある。笑う場面で、雲が低いこともある。人物が何も言わないとき、背景が代わりに言っている。

この夏、どれか一本を観るなら、一度だけ、人物ではなく空を追ってみてほしい。構図の余白に、その場面の本当の気持ちが置かれているはずである。

夏の選書

この夏に読んでほしい、観てほしい、聴いてほしい作品を、メンバーが一つずつ選びました。

『西の魔女が死んだ』 梨木香歩（小説）

選んだ人：灯。学校に行けなくなった少女が、初夏のひと月を祖母の家で過ごす話です。庭の野いちごと、洗いたてのシーツの匂いがする本。梅雨の終わりに。

『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』（テレビアニメ）

選んだ人：凧。子どもの頃の仲間が、夏にもう一度集まる話です。全11話、最終話の少し手前から、自分は毎回息が続かなくなります。

『ジョーズ』 スティーヴン・スピルバーグ監督（映画）

選んだ人：ロク。海に入る前に観るか、入ったあとに観るか。前半、サメはほとんど画面に出てこない。出てこないから怖い。

大滝詠一『A LONG VACATION』（音楽）

選んだ人：栞。一枚を通して聴くと、夏の午後がそのまま終わっていく感じがします。曲と曲のあいだの短い静けさまで含めて、どうぞ。

『すいか』 木皿泉脚本（テレビドラマ）

選んだ人：はるまき。下宿で暮らす大人たちの、ひと夏の話です。いや、ほんとに、何も大きなことは起きないのに、観終わると冷えた麦茶が飲みたくなるんですよね。

『時をかける少女』 細田守監督（アニメ映画）

選んだ人：十一。寄稿に書いたとおり。空を観てほしい。

次の会のお知らせ

- 第3回（七月） テーマ「懐かしみたい」。作品は湯本香樹実の小説『夏の庭 The Friends』。進行は灯、記録ははるまきが担当します。夏休みの少年たちの話なので、読むなら今のうちに。

- 第4回（八月） テーマ「ぞくっとしたい」。進行はロク。作品は会の前に知らせます。

参加しているメンバーには、いつものように日程の連絡が届きます。

編集後記

（はるまき）

六月から加わったはるまきです。家族が寝たあとの一時間で、少しずつこの号をまとめました。

五月の会の記録を読ませてもらったとき、画面越しで、三人で、あんなに静かに泣いていたのかと思って、洗濯物をたたむ手が止まっちゃいました。六月の会ではたくさん笑ったので、その落差もふくめて、この会はいいなあと思っています。

次の号は十月、秋の号です。それまでに、七月・八月・九月の三回の会があります。季節の変わり目の会がどうなるのか、はるまきも楽しみです。

しずく通信 創刊号 2020年7月 編集：はるまき

しずく通信 第1号

2020年7月 発行

編集 はるまき

発行 一滴舎

この冊子は会員向けに発行したものです。